

国連NGO横浜国際人権センター・うずしおブランチ T-over人権教育研究所・人権こども塾ニュース

人間としての生き方を考える道德教育と同和教育⑧ ～みんなとなら偏見の目を変えていける～

3年B組のみんなとなら、部落に対する偏見の目を変えていける

私は、部落出身教師として、自分自身をさらけ出し、同和問題をひたむきに語り続けてきました。その中で、3年B組の生徒たちは、それまで絶対に仲間に打ち明けことがないと思っていたことを、誇りとよここびをもって語り出しました。

この道德授業も、部落差別解消への願いを語り合う授業となっていきます。一人ひとり発言が、クラス全体に温かいものを生み出していき、様々な思いや願いが語られていきます。

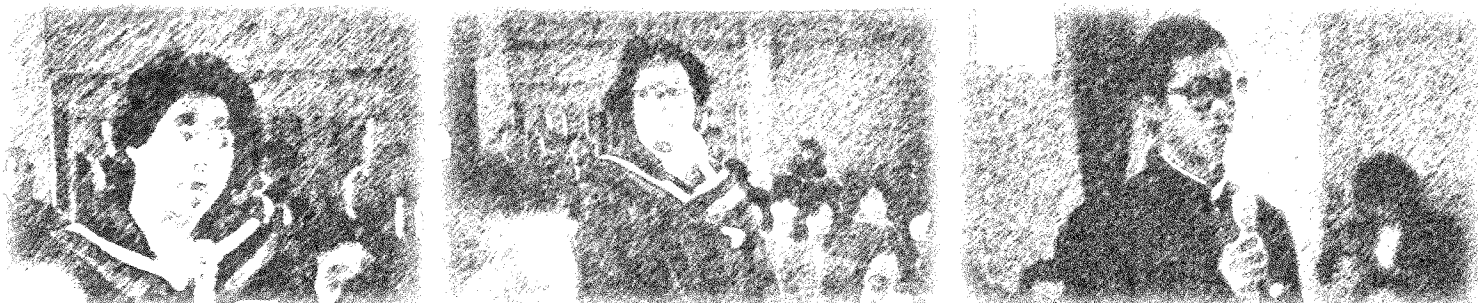
Y・Iの語り「みんなとなら部落に対する偏見の目を変えていける」

英夫は、正太郎を信じることはできないと思っていたと思います。だから正太郎が心を入れ替えるまで、その正太郎がつくった穴を埋めることは自分にはできないと思っていたと思います。

そして、自分たちナインには何もできないことはないと思っていたから、変わっていった新道を自分たちなら昔の温かい関係の新道に変えられると思ったと思います。

もし、新道の街自体が大きく変わってしまっても、昔の人間と人間との絆があった新道のよさをもって、自分たちは頑張っていくことができるという自信があったと思います。

今、私は英夫みたいに、絶対に切れることのないみんなとの絆を大切にしたいし、自分たちには何もできないことはないと思っているから、たくさんの方が板野という町をどう思っているかは知らないけれど、私は3年B組のみんなとなら絶対に、板野町に対する偏見の目とかを変えていけると、私は今自信を持っています。



S・Nの語り「偏見の目を一生懸命頑張って変えていきたい」

私もY・Iさんと同じような意見なんですけど、この3年B組のクラスの中に私がいてよかったと思います。みんなの前だったらいろんなことを発表できるし、そしてもし友だちとかがその友だちのつらいことを告白してくれたときでも、このクラスのみんなだったら一人にしないで、すぐに手を挙げて支えてくれるし、そんな仲間とならどんなことでもできると思います。

そして、私もみんなとともにこの板野町をどんなふう考えている人がいるかわからないけど、そんな偏見の目を一生懸命頑張って変えていきたいと思います。

H・Mの語り「僕の一番言いたいことがはっきり言えたクラス」

このクラスは僕の一番言いたいことがはっきり言えたクラスであり、やっぱり心が通じ合ったクラスであるから、この思いを忘れないで将来この思いを生かして、差別とかにも対抗して頑張っていきたいと思います。

アツという間の50分、最後の意見を求めた問いかけ

「みんなの思いがいっぱいつまった授業になってきました。そのことがうれしいです。あとわずかな時間、みんなの中にある思いを最後に出し合って、この時間を閉じたいと思います。」

授業者の言葉に、10名近くの生徒の手が挙がる。一度も発言していない生徒も挙手している。緊張の舞台上、その生徒たちは何を言ってくれるのか。授業の終了時間は迫っていきます。